

刑法草案

刑法草案
完

第 四	第 四 架	第 五 號
--------	-------------	-------------

司法部

三 第一一號

寄贈圖書文庫

完

6

KB60
K



LB600
K5-1
T.P.

第二編 公ケナル事ニ對スル重罪及ヒ輕罪

第一章

第一節 天皇及ヒ天皇ノ主權ニ對ス

ル重罪及ヒ輕罪

第一条 日本 天皇皇后及ヒ皇太子ノ

身體ニ對シタル重罪又ハ輕罪ハ卑屬ノ親

其尊屬ノ親ノ身體ニ對シ犯シタル重罪

又ハ輕罪ヲ同シク第三編第四十九條ニ

XB600
K 5
|

刑法

ヨリ第五十五条ニ至ル條々ニ後ヒ刑ニ處ス

第二条 陰謀決議ヲ為シ此ノ重罪又ハ輕罪

ヲ犯シタル時已レノ意外ノ景況ニヨリ之

ヲ仕損スル者ハ本罪ニ一等ヲ減スル丁

ヲ得

若シ犯サントセシ端緒ニ於テ已レノ意

外ノ景況ニヨリ其所為ヲ中止シタル者

ハ本罪ニ一等ヲ減ス

陰謀ヲナスト虽モ設備ノ成爲ノミナル

片ハ本罪ニ二等ヲ減ス

陰謀ヲナスト虽モ未タ設備ノ成爲アラ

サル片ハ本罪ニ三等ヲ減ス

前條ニ記載シタル重罪又輕罪ヲ犯スノ

陰謀ヲ醸スヘキ發言スル者アリト虽モ

五ニ煖議セサル片ハ本罪ニ四等ヲ減

ス

第三條 第一條ニ記載シタル重罪ヲ目的ト
 スルニ非ラサレバ皇朝ヲ覆ヒ又日本管
 内ニ於テ皇權ヲ拒絶シ又皇權ヲ減殺シ
 又ハ皇嗣ノ順序ヲ乱ルヲ目的トシタル
 重罪ハ重流刑並ニ五十年ニ至ル罰金ヲ
 處ス

第四條 前條ニ記載シタル重罪ハ犯人ノ

意外ノ景況ニヨリ中止シタル并ハ前
 條ノ刑ニ照シテ斷ス

第五條 若シ第三條ニ記載シタル重罪
 ヲ犯サントスルノ設備ノ所為ノミナル
 并ハ本罪ニ一等ヲ減シ又二人以上ニテ
 商議決定シタル陰謀ノミナル并ハ本罪
 ニ二等ヲ減ス

若シ陰謀ヲ醸スヘキノ發言ヲナスト虽モ

六條ハ終リ

互ニ恠議セサル片ハ本罪ニ三等ヲ減ス
 第六條 第一條第三條ニ記載シタル重罪
 ヲ犯スノ陰謀ニ組ミシタルニ未タ其犯
 サントスルノ所為アラス且未タ公訴ノ
 初マラサル前先キニ官署ニ陰謀ヲ自首
 シ且其正犯並ニ附從ヲ告知シタル者ハ
 本罪ヲ免シ五年ヨリ十年ニ至ル時間
 警察ノ監視ニ付ス

公訴ノ初リタル後又ハ捕ニ就クト雖モ未
 タ犯カサントスル所為アラサハ前其重
 立タル正犯附從ヲ捕獲スルノ助ケヲナ
 シタル者モ亦同
 第七條 公然直ニ 天皇皇后皇太子ニ對
 シ為シタル不敬ノ罪ハ三月ヨリ五年ニ
 至ル重禁獄並ニ五百円ニ至ル
 罰金ニ處ス

第九條 天皇皇后皇太子ノ目前ニアラス

ト雖モ刑行又ハ公然演説又ハ言語ヲ以

テ犯シタル不敬ノ罪ハ三月ヨリ五年ニ

至ハ輕禁錮並ニ五円ヨリ五百円ニ至ル

罰金ニ處ス

第六條 第一條干條第三條ニ記載シタル刑

ニ處スルト虽モ若シ第一條二條三條ニ記

載シタル重罪ヲ犯ス為メ左ノ件々ヲ用ヒ

タル片普通ノ刑ノ重キハ重キニ從ヒ處断

ス

一 人ノ住居シタル家屋又ハ公ケノ建造

物武庫ニ放火シタル時

二 火藥又地雷火水雷火ヲ發烈シタル時

三 戦争ヲナサハル官吏其他ノ者ヲ謀殺
毒殺シタル時

四 兵器ヲ持セサル兵卒虜トナリタル者
人質トナリタル者其他犯人ニ抗拒シ
能ハサル者ヲ殺シタル時

但シ以上ハ一揆ノ眾ノ裁判言渡ヲナ
シタル時ト虽モ亦之ニ因テ處断ス

第~~一~~條 ^一ニ條三條ニ記載シタル重罪ヲ犯ス

為メノ法方ニ非ラスレテ盜罪又ハ其他ノ

重罪ヲ犯シタル者モ亦同シ

第二章 國ノ外部ノ安寧ヲ害スル

重罪

第一條 謀叛ノ重罪ハ死刑ニ処ス

第二條 日本國ニ對シ又ハ外國ト交戦中日

本國ト同盟シタル與國ニ對シ兵器ヲ弄シ

タル日本人ハ皆謀叛罪トナス

第三條 左ノ件々ニ於テハ日本國又ハ其

与國ニ對シ兵器ヲ弄シタル者ト見做

ス

一 日本国又ハ其與國ト交戦中故ラニ外国ノ兵隊ニ加リタル者

ニ 交戦中故ラニ築城師、谷械師、水夫、水先案内、會計、^内外醫師、看病人、賄方、召使、其他敵兵ヲ補助スヘキ名義ヲ以テ外國ノ海陸軍ニ附属シタル者

第四條 外國ト交戦中日本人敵國ノ兵隊

又ハ其官吏ヲシテ日本ノ領地ニ進入セ

シメ又ハ之ヲ容易ナラシメ又ハ日本國

又ハ其與國ニ屬スル都府、城塞陣^營、港口、

倉庫、海陸軍製造所ト^ニ武庫兵器彈

藥軍艦又ハ運漕船ヲ敵國ニ給与シタル

時ハ謀叛ノ罪トナス

第五條 日本官吏又ハ其他日本人其職

務或ハ公然タル職掌ニ因リ日本國又ハ

其與國、商議ニ関スル機密或ハ其海陸
軍ニ関スル密事ヲ知り之ヲ敵國ノ官吏
ニ洩漏シタル時ハ謀叛ノ罪ヲ以テ論ス
日本人偽計暴行ヲ以テ出兵或ハ商議
ニ関スル機密ヲ洩漏スヘキ各類、四面又
ハ文書ヲ奪ヒ得テ之ヲ敵國ニ渡シタル
時モ亦同シ

第六條 日本人、日本國又ハ其與國ノ軍

隊、船隊ヲ備ヘタル要所、又ハ其舉動又
海陸軍隊、又ハ金銀食料兵器彈藥ノ
模様ヲ敵國ニ知ラシメ又ハ敵國ニ内
地ノ図面ヲ渡シ或ハ敵國ノ為メ便利
又ハ險阻ナル道路ヲ指示シテ敵國ノ間
諜ヲシタル時ハ謀叛ノ罪トナス

日本人敵國ノ間諜又ハ探索人ヲ内地ニ
入レ又之ヲ匿シ又之ヲ導キタル時ハ

内地ノ間諜ト同シク論ス

第七條 前數條ニ記載シタル正犯附從ノ刑ヲ法例ニ照シ一等又ハ數等ヲ輕減ス
一キ時ハ從刑懲役ヲ適用ス可シ

第八條 若シ外國人第三條第四條第

五條第六條ニ記載シタル重罪ヲ犯シタル者ハ死刑ヲ重從刑ニ換ヘテ処断ス但シ軍律及ヒ圍シヲ受ケタル時見

做スヘキ規則ヲ以テ処断スル分ハ比例ニ振ラス

第二編 公ケナル事ニ對スル重罪及ヒ輕罪

第一章 天皇及ヒ天皇ノ主權ニ對スル

重罪及ヒ輕罪

第一條 日本 天皇皇后及ヒ皇太子ノ

身體ニ對シタル重罪又ハ輕罪ハ卑屬ノ親

其尊屬ノ親ノ身體ニ對シタル重罪

又ハ輕罪ニ同シ

第二條 二人以上陰謀決議ヲ為シ此ノ重罪

又ハ輕罪ヲ犯シタル時已レノ意外ノ景況
ニヨリ之ヲ仕損スル者ハ本罪ニ一等ヲ減
スルコトヲ得

若シ犯サントセシ端緒ニ於テ已レノ意
外ノ景況ニヨリ其所為ヲ中止シタル者
ハ本罪ニ一等ヲ減ス

陰謀ヲナスト虽モ設備ノ所為ノミナル
片ハ本罪ニ二等ヲ減ス

陰謀ヲナスト虽モ未タ設備ノ所為アラ
ザルハ本罪ニ三等ヲ減ス

前条ニ記載シタル重罪又輕罪ヲ犯スノ
陰謀ヲ醸スヘキ祭言スル者アリト虽モ
且ニ悞議セザルハ本罪ニ四等ヲ減
ス

第三条 第一条ニ記載シタル重罪ヲ目的ト
スルニ非ラサレハ皇朝ヲ覆シ又日本管

内ニ於テ皇推ヲ拒絶シ又皇推ヲ滅殺シ
又ハ皇嗣ノ順序ヲ乱ルヲ目的トシタム
重罪ハ重流刑並ニ五千円ニ至ル罰金ニ処
ス

第四条 前条ニ記載シタム刑ハ犯人ノ
意外ノ景況ニヨリ中止シタル時ニ於
テ之ヲ科ス若シ設備ノ欠為ノミナリ
片ハ本罪ニ一等ヲ減シ又二人以上ニテ

商議決定シタル陰謀ノミナリ片ハ本罪
ニ二等ヲ減ス

其陰謀ヲ醸スヘキノ祭言ヲナスト虽モ
臣ニ悞議セサル片ハ本罪ニ三等ヲ減
ス

第五条 第三条ニ記載シタル重罪ヲ犯ス
為メニ左ノ件ミテ用ヒタル者ハ死刑ニ
處ス

一人ノ住居シタル家屋又ハ公ケノ建造物海陸軍製造所政府ニ屬シタル船ニ放火シタル時

二火藥又地雷火水雷火ヲ破烈セシメタル時

三戦争ヲ為サ、ル官吏其他ノ者ヲ謀殺毒殺シタル時

四兵器ヲ持セサル兵卒虜トナリタル

者人質及ニ使節トナリタル者其他犯人ニ抗拒シ能ハサル者ヲ殺シタル時

本条ニ記載シタル者輕減スヘキ状アル時ハ普通ノ刑(徒刑懲役ノ類)ニ輕減ス

第六條 第三條ニ記載シタル重罪ヲ犯スニ兼シ其罪ヲ犯スノ方法ニ非スレテ餘罪ヲ犯シタル者ハ法例第百一條ノ例ニ照シテ處断ス

第七條 第一條第三條ニ記載シタル重罪
 ヲ犯スノ陰謀ニ組ミシタルニ未タ其犯
 サントスルノ所為アラス且未タ公訴ノ
 初マラサル前先キニ官署ニ陰謀ヲ自首
 シ且其正犯並ニ附從ヲ告知シタル者ハ
 本罪ヲ免ス公訴ノ初リタル後又ハ捕ニ
 就クト雖モ未タ犯カサントスル所為ア
 ラサル前其重立タル正犯附從ヲ捕獲

スルノ助ケヲナシタル者モ亦同ニ
 但シ前條ノ餘罪ヲ科スルハ此限ニア
 リス
 本條ニ記載シタル者本刑ハ免スト雖モ
 仍ホ五年ヨリ十年ニ至ル時間警察
 ノ監視ニ付ス
 第八條 公突直ニ天皇皇后皇太子ニ
 對シ為ニタル不敬ノ罪ハ三月ヨリ五年ニ

至ル重禁獄並ニ五圓ヨリ五百圓ニ至ル
罰金ニ処ス

天皇 皇后皇太子ノ目前ニアラスト金モ
刊行又ハ公然演説又ハ言語ヲ以テ犯
シタル不敬ノ罪ハ三月ヨリ五年ニ至
ル輕禁錮並ニ五圓ヨリ五百圓ニ至ル罰
金ニ処ス

第二章 國ノ外部ノ安寧ヲ害スル

重罪

第一條 敵國ニ與シ日本國又ハ外國ト交戦

中日本國ト同盟シタル英國ニ敵對シタル

日本人ハ皆謀叛罪トナシ死刑ニ處ス

第二條 日本國又ハ其英國ト交戦中故ラニ

敵國ノ兵隊ニ加リタル者其他如何ナル名

義ヲ問ハス補助ヲ為ス為メ敵兵ニ附屬シ

タル者ハ謀叛ト同シク論ス

第三條 對國ト交戦中日本人敵國ノ兵隊其
他敵國ノ用ヲ為ス者ヲ日本ノ領地ニ進入
セシメ又ハ之ヲ容易トラシメ又ハ日本國
又ハ其英國ニ屬スル都府、城塞、陣營、港口倉
庫海陸軍製造所一ニ武庫
ト訣ス兵器彈藥軍艦又
ハ運漕船ヲ敵國ニ給与シタル者ハ謀叛ノ罪
トナス

第四條 日本官吏又ハ其他日本人其職務或

ハ公選タル職掌ニ因リ日本國又ハ其英國
ノ高議ニ関スル機密或ハ其海陸軍ニ関ス
ル密事ヲ知リ之ヲ敵國ノ人ニ洩漏シタル
時ハ謀叛ノ罪ヲ以テ論ス

日本人偽計賄賂暴行ヲ以テ出兵或ハ高議
ニ関スル密事又ハ其書類圖面文書ヲ得テ
之ヲ敵國ニ漏レタル時モ亦同シ

第五條 日本人、日本國又ハ其英國ノ軍隊、船
 隊ヲ備ヘタル要所又ハ其舉動又海陸軍隊
 又ハ金銀食料兵器彈藥ノ模様ヲ敵國ニ知
 ラシメ又ハ敵國ニ内地ノ細圖ヲ渡シ或ハ
 敵國ノ為メ便利又ハ險阻ナル道路ヲ指示
 シテ敵國ノ間諜ヲシタル時ハ謀叛ノ罪ト
 ナス

日本人敵國ノ間諜又ハ探索人ヲ内地へ入

レ又之ヲ匿シ又之ヲ導キタル時ハ内地ノ
 間諜ト同シテ論ス

第六條 未タ戦書ヲ送ラスト雖モ其送ラシ
 トスル際ニ於テ前二条ノ罪ヲ犯シタル者
 モ亦本条ニ依テ處断ス

第七條 謀叛ノ未遂犯罪ハ重徒又ハ輕徒ニ
 處ス

謀叛ノ罪ヲ行ハントスル目的ヲ以テ敵國

ト通信ヲ為シタル者ハ設備ノ所為ト為シ
輕徒又ハ重懲役ニ處ス

第八條 若レ外國人第三條第四條第五條第
六條ニ記載シタル重罪ヲ犯シタルハ本
罪ニ一等ヲ減ス

第三章 國ノ内部ノ安寧ヲ害スル重罪

輕罪

第一條 第一章第三條ニ記載シタル 天皇

ノ主權ニ對スル重罪ヲ目的トスルニ非ル

内亂ヲ興^起シタル者ハ輕流刑ニ處ス

政府及各府縣ノ官署ノ一個又ハ數個ヲ轉^顛

覆シ又ハ其官署ヨリ頒布シタル制令ヲ廢

セシメ又ハ之ヲ中止セシムルヲ目的ト為

シ兵器ヲ持シテ群聚シタル者ハ内乱者ト
同シク論ス

第二條 前條ノ刑ハ未遂犯ノ時ニ於テ之
ヲ科ス

第三條 左ノ件ニ於テハ内乱ヲ起シタル者
ト同シク論ス
ヲ罰スル刑ニ處ス

- 一 海陸軍ノ製造所又ハ兵器彈藥及ヒ各
種ノ軍器ヲ藏スル場所ニ於テ奪掠ヲ

為シタル者

- 二 偽計又ハ威力ヲ以テ陸軍ノ陣營又ハ
政府ノ船舶ヲ押領シタル者

- 三 偽計又ハ威力ヲ以テ群聚シタル者ヲ
鎮靜スル為メ出シタル兵隊又ハ官吏
ノ集會通行進退ヲ妨ケ又文書ノ往復
ヲ妨ケタル者

第四條 兵隊ヲ囂聚シ又ハ編制シ又ハ前條

ニ記載シタル法方ニ依ラスレテ得タル所
ノ兵器彈藥其他各種刃軍器ヲ賊徒ニ分与
シタル者ハ内乱ノ設備トナシ重禁獄ニ處
ス
其他ノ法方ヲ以テ設備ノ所為ヲ為シタル
者ハ輕禁獄ニ處ス

第五條 二人以上内乱ノ重罪ヲ犯スノ陰謀
ヲ決定シタル者ハ二年ヨリ五年ニ至ル輕

禁錮并ニ二回ヨリ百回ニ至ル罰金ニ處ス

第六條 内乱ニ與シタル者ハ前條ノ刑ニ處
スルト雖モ常備兵隊ヲ誘惑シテ逃避セシ
メタル者又ハ其兵隊ヲ逃避セシメタル士
官ヲ軍律及ヒ圍ミヲ受ケタル時ト見做ス
ヘキ規則ニ依リ処断スヘキ時ハ此限ニア
ラス

第七條 人ヲ指名シ又ハ指名スルニ非スト

虽モ虐殺又ハ官私ノ所有物ヲ奪掠破壊ス
ルノ目的ヲ以テ羣聚ヲ為シタル者ハ内乱
ヲ以テ論セス各本條ニ依テ処断ス

第一章第六條ニ記載シタル眾ヲ内乱ノ眾
ト同時又ハ前後ニ犯シタル時モ亦同シ

第八條 羣聚ヲ挑唆シ又ハ其羣聚ノ指揮ヲ
為シタル者ハ前數條ニ記載シタル刑ノ長
期ニ処ス

第九條 挑唆又ハ指揮ヲ為ス者若シ官吏ナ
ル時ハ前條ノ刑ニ仍ホ一等ヲ加フ

第十條 前數條ニ記載シタル重眾犯ノ聚會
所又ハ隱匿所ヲ故ラニ給与シタル者ハ附
從トナシテ処断ス

若シ此附従者官吏ナル時ハ一等ヲ加フ

第十一條 威力又ハ脅迫ヲ以テ政府及ヒ各
府縣ノ政事ノ一部タル行政又ハ司法官署

ノ集會又ハ評議ヲ妨ケタル者ハ輕禁獄ニ
処ス

若シ邑ノ政事ニ係ル者ヲ妨ケタル時ハ二
年ヨリ五年ニ至ル輕禁銅并ニ二円ヨリ百
円ニ至ル罰金ニ処ス

第十二條 一人又ハ數人ノ官吏ノ職務ヲ妨
ケタル者モ前條ノ區別ニ從ヒ同刑ニ処ス
第十三條 威力又ハ脅迫ヲ以テ國民ノ權ヲ

行ヒ又ハ義務ヲ行フヲ妨ケタル者、一年ヨ
リ五年ニ至ル輕禁銅並ニ二円ヨリ五十円
ニ至ル罰金ニ處ス

第十四條 前三條ニ記載シタル重罪輕罪ノ
挑唆者ハ各條ニ照レ各其長期ニ處ス
若シ其挑唆者官吏ナル時ハ仍ホ一等ヲ加フ
此罪ノ未遂輕罪犯ハ法例ニ照レテ處断

ス

司馬遷

第四章 公ノ靜謐ヲ害スル重罪輕罪

第一節 往來交通ヲ妨害スル重罪

輕罪

第一條 往來ノ自由ヲ妨害スルノ意ヲ以テ

故ラニ道路橋渠河溝ヲ損壞シタル者ハ六

月ヨリ二年ニ至ル重禁錮并ニ五匁ヨリ二

十匁ニ至ル罰金ニ處ス

第二條 偽計又ハ威力ヲ以テ郵便ノ事務ヲ

司馬遷

妨ケ或ハ之ヲ止メタル者ハ前条同刑ニ處ス

但シ人ノ身体ニ暴行ヲ加ヘ又ハ文書ヲ毀損滅盡シタル時ハ重キニ從テ處断ス

第三條 故ラニ電信ノ柱木ヲ毀損抜倒シタル者ハ一年ヨリ五年ニ至ル重禁錮并ニ十圓ヨリ五十圓ニ至ル罰金ニ處ス

若シ信線ノミヲ断チタル者ハ第一条ノ刑

ニ處ス

第四條 汽車ノ進行ヲ錯ラレメ又ハ衝突セ

レメ又ハ其他ノ危害ヲ来サレムル為メ故

ラニ鐵道又ハ其標識ヲ破壊シタル者ハ輕

懲役ニ處ス

第五條 前條ノ意ヲ以テ船舶航海ノ安寧ヲ

保護スル為メ設ケタル燈臺浮標其他ノ物

件ヲ破壊シタル者ハ前条同刑ニ處ス

第六條 前數條ニ記載レタル罪ヲ道路郵便

電信鐵道航海ノ安寧ヲ保護スル官吏等ノ

私レタル時ハ一等ヲ加フ（第一條第二條第三條ノ場合ニ於

テハ加重ス）

第七條 第四條第五條ニ記載レタル鐵道燈

臺浮標ヲ破壊レ因テ人ヲ殺傷レタル者ハ

殺傷ノ罪重キ時ハ豫メ謀リ人ヲ殺傷レタ

ル刑ニ處ス

第八條 内亂ノ際前數條ノ罪ヲ犯スト虽モ

鎮靜ノ處分ニ抵抗スルノ方法ニ出テザル

時ハ前數條ノ刑ニ處ス

第二節 公ノ官吏職務ヲ行フヲ妨害ス

ルノ罪

第一條 一人ニ對シタル行政司法ノ法律規

則又ハ判決ヲ執行スルニ當リ其官吏ニ對

シ暴行脅迫ヲ以テ抗拒シタル者ハ四月ヨ

リ四年ニ至ル重禁錮并ニ四圓ヨリ四十圓

ニ至ル罰金ニ処ス

前項ノ執行ニ關係ナキ者ト虽モ二人以上

ニテ拒抗シタル者ハ一等ヲ加フ（四分ノヲ加重ス）

抗拒ヲ為ス者ノ内一人若クハ數人兇器ヲ

持シタル時ハ（仍ホ一等ヲ加フルカ）

因テ人ヲ殺傷シタル者殺傷ノ罪重キ時ハ

重キニ從テ処断ス

第二條 書面又ハ言語ヲ以テ暴行脅迫ヲ為

シ四等以上ノ官吏ノ職務ヲ行フヲ妨ケ又

ハ其官吏一人ノ職務ヲ行フヲ止メシメ又

ハ強テ行ハシメタル者ハ四月ヨリ四年ニ

至ル輕禁錮並ニ四四ヨリ四十田ニ至ル罰

金ニ處ス

前条ニ記載シタル重キ状アル者ハ一個ア

ル毎ニ一等ヲ加重ス

暴行脅迫ヲ為スト虽モ其官吏ノ職務ヲ正

當ニ行フタル時ハ一等ヲ減ス

暴行脅迫ニ因テ人ヲ殺傷シタル者殺傷ノ

輕禁錮
ニテ直
シキヤ

仕損

ノ眾重キ時ハ重キニ從テ処断ス

第三條 二十人以上黨ヲ結ヒ前條ニ記載シタル暴行脅迫ヲ為シ十人以上兇器ヲ持シタル時ハ内乱ノ眾ト見做シ第三編第一章ノ刑ニ依テ処断ス

第四條 官吏ノ職務上ニ付又ハ職務ヲ行フニ当リ體容又ハ言語ヲ以テ不敬ヲ為シタル者ハ一月ヨリ六月ニ至ル重禁錮并ニ二

派ノ警
官ノ等級

四ヨリ十四ニ至ル罰金ニ處ス

若シ公ケ又ハ公ケニ非スト雖モ裁判所ノ訟庭ニ於テ犯シタル時ハ本罪ニ二等ヲ加フ

若シ訟庭ニ於テ裁判所ニ對シ又ハ集會シタル官署ニ對シテ犯シタル時ハ二月ヨリ一年ニ至ル重禁錮并ニ五円ヨリ五十円ニ至ル罰金ニ處ス

二年迄ト
スルカ

第六條 前數條ニ記載スル犯罪ハ出版條例
ト抵觸スルコトナカレ

第三章 國ノ内部ノ安寧ヲ害スル重

罪輕罪

第一条 院省地方各官署ノ権ヲ顛覆シ

又ハ變更シ又ハ其官署ヨリ頒布シタル

制令ヲ廢セシメ又ハ之ヲ中止セシムル

ヲ目的ト為シ内乱ヲ起シタル者ハ輕流

刑ニ処ス(原語内乱ヲ大中小三種ニ區別セリ
暫ク此一語ヲ以テ三種ニ充テタリ)

本刑ハ着手セントスル始ニ於テ之ヲ科

ス

第二条 前条ニ記載シタル顛覆復變更ヲ

目的トシテ尤ノ件々ヲ犯シタル者ハ

前条同刑ニ処ス

一 海陸軍ノ製造所又ハ兵器彈藥及

ヒ軍備兵糧ヲ藏スル場所ニ於テ劫

掠ヲ為シタル者

二 偽計又ハ威力ヲ以テ陸軍ノ陣營又

ハ政府ニ船舶並ニ使用スル船舶ヲ

占領シタル者

三 偽計又ハ威力ヲ以テ内乱ヲ起シタル

者ヲ鎮靜スル為ツ出シタル兵隊ノ集

會其他諸般ノ事務ヲ妨ケ又文昏命

令ノ往復ヲ妨ケタル者

第三条 兵隊ヲ招募シ又ハ編成シ又ハ

兵器彈藥其他ノ軍備兵糧ヲ賊徒ニ付

與シタル者ハ前条ニ記載シタル重罪犯
ノ設備ノ不行トナシ重禁獄ニ処ス
但シ常人ニシテ常備兵隊ヲ誘惑シテ
内乱者ニ合セシメタル者ハ軍律ニ依テ
処断ス
其他ノ方法ヲ以テ設備ノ所為ヲ為シタ
ル者ハ輕禁獄ニ処ス

第四条 二人以上前数条ニ記載シタル重

罪ヲ犯スノ陰謀ヲ決定シタル者ハ二年
ヨリ五年ニ至ル輕禁錮並ニ二百ヨリ百円
ニ至ル罰金ニ処ス

第五条 人ヲ指名シ又ハ指名スルニ非スト
虽モ虐殺シ又ハ官私ノ所有物ヲ破壊
劫掠スルノ目的ヲ以テ内乱ヲ起シタ
ル者ハ(内乱ヲ以テ論セス)通常ノ刑ニ
依テ処断ス

第六條 第一章第五條第六條ニ記載
シタル罪ヲ内亂ノ罪ト同時又ハ前後ニ
犯シタル時ハ第五條第六條ニ依テ必斷
ス

第七條 内亂ヲ起スト且モ挑唆者ニ非ス
又指揮ヲ為シタル者ニ非ス又直チニ着
手スルニ非ス又前第二條ニ記載シタル
所行ヲ為スコトナク自カラ解散シタル

者ハ本刑ヲ免シ五年ヨリ十年ニ至ル監
視ニ附ス

若シ直チニ着手シタル者ハ本刑ニ一等
ヲ減ス

挑唆者(及ヒ首謀)ト虽モ未タ着手ニ及
ズ且第二條ニ記載シタル所行ヲ為スコ
トナク自カラ降伏シタル者モ本刑ニ一等
ヲ減ス

但以下入レ
置クヘキカ

第八條 公兵ヲ示令スル權アル官吏若シ
内乱ノ挑唆者又ハ首ナル時ハ（五條六條
ヲ除クカ）前數條ニ記載シタル刑ニ一等
ヲ加フ但シ此加重ハ共犯附從ニ及ホス丁
ヲ得ス

第九條 内乱ヲ起スノ前又ハ内乱ニ際シ内
乱ノ目的及ヒ拳動ヲ知テ故ラニ聚會所又
ハ隱匿所ヲ故ラニ給与シタル者ハ前數條

ニ記載シタル重罪ノ附從トナシテ處断
ス

第十條 威力脅迫ヲ以テ立法及ビ行政官ノ
議事ノ會合ニ對シ又ハ各裁判所ニ對シ其
會合議事ヲ妨ケ又ハ強テ議事ヲ為サシメ
タル者ハ輕禁獄ニ處ス

院省使府縣ノ長官ニ對シ前項ノ罪ヲ犯シ
タル者ニ亦同

第十一条 威力又ハ脅迫ヲ以テ國民ノ權ヲ
行ヒ又ハ義務ヲ行フヲ妨ケタル者ハ一年
ヨリ五年ニ至ル輕禁錮先ニ二月ヨリ五十
円ニ至ル罰金ニ処ス

此條ノ未遂犯罪ハ法例ニ照シテ處断ス

第四章 國ノ靜謐ヲ害スル重罪輕罪

第一節 往來通信ヲ妨害スル重罪

輕罪

第一條 往來ノ自由ヲ妨害スルノ意ヲ以テ

故ラニ道路橋梁ヲ損壞シタル者ハ二

月ヨリ二年ニ至ル重禁錮並ニ五円ヨリ二

十円ニ至ル罰金ニ處ス

第二條 偽計又ハ威力ヲ以テ郵便ノ事務ヲ

妨ケ或ハ之ヲ止メタル者ハ前條同刑ニ處ス

但シ人ノ身体ニ暴行ヲ加ヘ又ハ文書ヲ毀損滅盡シタル時ハ重キニ從テ處断ス

第三條 故ラニ電信ノ柱木ヲ毀壞拔倒シ

電信局ノ器械ヲ破壞シタル者ハ六月

ヨリ三年ニ至ル重禁錮並ニ十日ヨリ五

十日ニ至ル罰金ニ處ス

若シ信線ノ之ヲ断テ其他通信ヲ妨ケタル者ハ前項ノ刑ニ二等ヲ減ス

第四條 汽車ノ進行ヲ錯ラシメ又ハ衝突セ

シメ又ハ其他ノ危害ヲ未サシムル為メ故

ラニ鉄道又ハ其標識ヲ破壞シタル者ハ輕

懲役ニ知ス

第五條 故意ヲ以テ船舶ノ危害ヲ生セシ

ムル目的ヲ以テ航海ノ安寧ヲ保護ス

ル為メ設ケタル燈臺浮標其他ノ物件ヲ
破壊シタル者ハ前条同刑ニ処ス

第六条 前五条ニ記載シタル罪ヲ道路郵便

電信鉄道航海ノ安寧ヲ保護スル官吏等ノ

犯シタル時ハ一等ヲ加フ(第一条第ニ条第
三條ノ場合ニ於

テハ四等ニ
テ加重ス

第七条 第四条第五條ニ記載シタル鉄道燈

臺浮標ヲ破壊レ因テ人ヲ殺傷シタル者

ハ豫メ謀テ人ヲ殺傷シタル刑ニ照シ重キ

ニ從テ處断ス

第八条 内乱ノ際前数条ノ罪ヲ犯ストモ

鎮静ノ処分ニ抵抗スルノ方法ニ出テザル

時ハ前数条ノ刑ニ処ス

第二節 公ノ官吏職務ヲ行フヲ妨害

スルノ罪

第一条 人ヲ指シ定メ法律規則又ハ行

政司法官署ノ命ヲ執行スルニ当リ其

官吏ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ抗拒シタ

ル者ハ四月ヨリ四年ニ至ル重禁錮

並ニ四田ヨリ四十田ニ至ル罰金ニス若

シ左件ノ一個アル者ハ一個毎ニ一等ヲ加

重ス

一 執行ニ関係ナキ者ト虽モ二人以上ニ

テ抗拒シタル者ハ一等ヲ加フ(加重ノス)

二 犯人兇器ヲ持シタル時

第二條 暴行又ハ書面言語ヲ以テ脅迫ヲ

為シ第三章第十條ニ記載シタル以外ノ

官吏ノ一般ニ對シ行フ所ノ職務ヲ行フ

ヲ妨ケ又ハ其官吏ノ欲セサルコト(又ハ行

フヘカラサルコトヲ強テ行ハシメタル者ハ

四月ヨリ四年ニ至ル輕禁錮並ニ四年ヨリ

四十圓ニ至ル罰金ニ処ス

前條ニ記載シタル重キ状アル者ハ一個ア

ル毎ニ一等ヲ加重ス

此罪ノ未遂犯罪ハ法例ニ照シテ処断

ス

第三條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ殺傷

シタル者殺傷ノ罪重キ時ハ重キニ從テ
処断ス

第四條 官吏ノ職務ヲ行フニ當リ又ハ職
務上ニ對シテ体容又ハ言語ヲ以テ公然直
チニ不敬ヲ為シタル者ハ一月ヨリ六月
ニ至ル重禁錮並ニ二回ヨリ十回ニ至ル
罰金ニ処ス

若シ此罪ヲ第三章第十條ニ記載シタ

ル官署ニ對シテ犯シタル時ハ本刑ニ二等
ヲ加フ

第一條 徒黨ヲ結ヒ人ノ身体又ハ官私ノ財

産ヲ害セントスル重罪輕罪ヲ目的ト為シ

タル兇行者ハ左ノ區別ニ從ヒ處斷ス

一其徒黨ヲ構成シ又其徒黨其首ト互ニ通

信シ又ハ其兇行ヲ為スヘキ職務ヲ約シ

又ハ兇行ヲ以テ得タル利益ヲ分配スル

ノ約束ヲ為シタル者ハ六月ヨリ二年ニ

至ル重懲 罰金ヨリ二十円ニ至ル罰金
ニ処ス

二人ノ身体財産ニ對シタル輕罪ヲ犯シタ
ル時ハ各本條ニ照シニ等ヲ加フ

三若シ重罪ニ係ル者ハ本刑ニ一等ヲ加フ

四重罪又ハ輕罪ヲ行ヒ仕損シタル時ハ本

刑ニ一等ヲ減ス 其中止ニ係レ者ハ二等

ヲ減ス

五重罪輕罪ヲ犯スノ設備ノミナル時ハ本
刑ニ三等ヲ減ス

第二條 前條ニ記載シタル刑ハ徒黨中ノ各
自ニ對シ宜告スヘシ

徒黨ヲ構成シタル者並ニ其首ハ各本刑ノ
長期ニ處ス

第三條 前條ニ記載シタル徒黨ノ目的ヲ知

リ故ラニ其居所、隱匿所、聚會所ヲ給与シタル者ハ假令徒黨中ノ者餘罪ヲ犯シタルコトヲ知ラスト雖モ其黨中ノ犯シタル輕重罪ノ最重ノ罪ノ附從トナシ處断ス

第三節 惡徒夥黨ノ罪

第一條 人ノ身体又ハ官私ノ財産ヲ害セントスル重罪、輕罪ヲ目的ト為シ三人以上ノ

惡徒夥黨シタル者ハ六月ヨリ二年ニ至ル

重禁錮五回ヨリ二十四ニ至ル罰金ニ處ス

第二條 徒黨ヲ構成シ又其徒黨互ニ通信シ

又ハ兇行ヲ為スヘキ職務ヲ約シ又ハ兇行

ヲ以テ得タル利益ヲ分配スルノ約束ヲ為

シタル時本刑ヲ科ス

第三條 徒黨ヲ構成シタル者並ニ其首謀ハ

第一條ニ記載シタル刑ノ長期ニ處ス

但シ法例第...
小(穀黨ニ餘罪...
徒ニ穀黨シテ犯
タル輕重罪ノ刑
加重スル者ハ加
重ノ例ニ依ル

第四節 囚徒ノ逃亡其他刑事裁判ヲ妨

クル犯眾

第一條 囚徒獄舎又運送馬車ヲ毀テ逃亡シ

タル時ハ已決未決ヲ分タス一月ヨリ六月

ニ至ル重禁錮並ニ二圓ヨリ十圓ニ至ル罰

金ニ處ス但シ其囚徒已決ナル片ハ前犯

ノ刑期終リシ後又ハ未決ナル時ハ放免

ノ言渡シヲ受ケタル後本刑ヲ科ス

逃亡セシ為メ人ニ對シ暴行脅迫ヲ用ヒ逃
亡シタル時モ亦同刑ニ處ス但シ暴行脅
迫ニヨリ更ラニ重キ刑ニ處スヘキ片ハ
重キニ扱テ所斷ス

第二條 囚徒ヲ看守シ又ハ伴行スルノ任
アラサル者其逃亡ヲ得セシメタル片ハ
一月ヨリ六月ニ至ル重禁錮并四圓ヨリ
二十圓ニ至ル罰金ニ處ス

但シ左ニ記載シタル件々ノ一個アル毎ニ
本刑ニ二等ヲ加フ

一 犯人囚徒ノ逃亡ヲ得セシムル為メ破壊
又ハ暴行脅迫ヲ用ヒ又ハ囚徒ニ破壊
ヲナス為メノ器具若クハ暴行脅迫
ヲナス為メ兇器ヲ給与シタル時

二 二人以上通謀シテ囚徒ノ逃亡ヲ得セシ
メタル時

三逃亡シタル囚徒重罪ノ刑ニ処セラレタル
モノナル時

第三條 囚徒ヲ看守シ又ハ伴行スルノ任
ル者懈怠ニヨリ囚徒ヲ逃亡セシメタル時
若シ輕罪ノ刑ニ処セラレタル已決ノ囚徒
又ハ重罪輕罪ニ論ナク未決者ナル時ハ一
月ヨリ六月ニ至ル重禁錮ニ処ス

若シ重罪ノ刑ニ処セラレタル已決囚徒

ナル時ハ本刑ニ二等ヲ加フ

第四條 看守人又ハ伴人者囚徒共ニ通謀

シテ逃亡シタル時ハ左ニ記載スル件々

ニ處断ス

一 輕罪ノ刑ニ處セラレタル已決囚徒又

ハ未決ノ囚徒ナル時ハ二年ヨリ五年

ニ至ル重禁錮並ニ五箇ヨリ二十箇ニ

至ル罰金ニ處ス

二 有期ノ重罪ニ處セラレタル已決囚徒

ナル時ハ輕懲役ニ處ス

三 無期ノ刑ニ處セラレタル已決囚徒ナ

ル中ハ重懲役ニ處ス

看守人又ハ伴行者弟二條ノ弟一項ニ記

載レタル如ク獄舎ヲ破壊レ又暴行脅迫

ヲナレタル中ハ本刑ノ長期ニ處ス

弟二條 逃亡レタル囚徒又ハ刑事裁判所

〔事ニ檢訴〕ニ訴ヘラレタルモノト知リ故ラ

ニ陰匿所ヲ給与シタル者若シ輕罪ノ刑

ニ處セラレタル已決ノ囚徒又ハ輕重罪

ヲ犯シ訴ヘラレタル者ナル片ハ十五日

ヨリ三月ニ至ル重禁錮並ニ二円ヨリ十

円ニ至ル罰金ニ處ス

其重罪ノ刑ニ處セラレタル已決ノ囚徒

ナル片ハ本刑ニ止等ヲ加フ

抱
ハク留ヲ受ケス
此ニ訴ヘラレシ
時ハ未決ノ囚
際置シタル者
トハ所ス

第十四條トナリ

若シ其陰匿シタル者其犯人ノ配偶者及
ト係系ノ尊屬卑屬ノ親及ト同級ノ姻屬
ノ親及ト兄弟姉妹伯叔父母甥姪トナル片
ハ前條ニ記シタル刑ヲ免セス

第七條

第十四條トナリ

第八條 毒殺又ハ創傷毆撃ヲ受ケ又ハ其
他輕重罪トナルヘキ事由ニ依リ死シタ
ル人ノ死體ヲ掩蔽セシ者ハ五月ヨリ

一年ニ至ル重禁錮並ニ五円ヨリ二十円ニ至ル罰金ニ處ス

但シ此ノ軽重罪ニ加リシ者更ニ重キ刑ニ據テ處セラルヘキモノハ重キニ據リテ處ス

惡徒夥黨ヨリ生スル加重罪

第 條 人ノ多数ニヨリ或ル重罪輕罪ノ刑ヲ加重スルヲ除クノ外若シ第 条第二編

第三節第一条ニ記載シタル事ヲ目的ト為

シ三人以上ノ惡徒夥黨シテ重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ左ノ如ク本刑ヲ加重ス

輕罪ノ刑ニ當ル罪ヲ犯シタル者ハ各本条ニ照シ二等ヲ加フ若シ加ヘテ第 条第二

り積ル入=例法

編第三節第一條ニ記載シタル夥黨ノ罪ヨ
リ輕キ時ハ其条ニ依テ處断ス

若シ有期重罪ノ刑ニ当ル罪ヲ犯シタル者
ハ再犯加重ノ例ニ依ル

第 條 重罪輕罪ヲ仕損シタル時ハ一等ヲ
減ス

犯人意外ノ景況ニヨリ中止シタル時ハ二
等ヲ減ス

其重罪輕罪ノ設備ノミナル時ハ三等ヲ減
ス

第二節 匪徒結夥ノ罪

第一条 人ノ身体又ハ官私ノ財産ヲ害セシ

トスル重罪輕罪ヲ犯スルヲ目的ト為シ三

人以上ノ匪徒常ニ夥黨ヲ結ビタル者ハ三

月ヨリ二年ニ至ル重禁錮五回ヨリ二十四

ニ至ル罰金ニ處ス

本刑ハ未タ目的ト為シタル重罪輕罪ヲ犯

サス又着手セスト虽モ夥黨ヲ結ビタル時

ニ於テ之ヲ科ス

挑唆者又ハ徒黨ヲ構成シタル者並ニ其首
ハ本刑ノ長期ニ處ス

第二條 人ノ身体財産ニ對シ重罪輕罪ヲ犯

シ其輕罪ノ刑ニ當ル者ハ各本條ニ照シ二
等ヲ加フ若シ加ヘテ前 條ニ記載シタル

結夥ノ罪ヨリ輕キ時ハ前條ニ依テ處斷ス

若シ有期重罪ノ刑ニ當ル者ハ各本刑ノ長

期ニ處ス又其長期ノ半ニ至ルマテ加重ス
ルヲ得

其挑唆者又ハ構成者及ヒ其首ハ其目的ト
スル所ノ輕重罪ヲ現ニ犯サスト雖モ各本
條ニ照シ長期以上半ニ至ル刑ニ處ス

第三條 結夥ノ目的及ヒ性質ヲ知り故ラニ

其結夥シタル者ニ止宿所、隱匿所、又ハ集合
所ヲ給与シタル者ハ其結夥シタル者ノ輕

重罪ヲ犯スニ其法方ノ重キキ状アルコトヲ
知ラスト虽モ其犯シタル輕重罪ノ附後ト
ナシテ處断ス

第四節 囚徒ノ逃亡其他刑事裁判ヲ

妨クル犯罪

第一条 逃亡ヲナス為メ已決ノ囚徒獄舎又
ハ獄具運送馬車ヲ毀テタル時ハ一月ヨリ
六月ニ至ル重禁錮ニ處ス但シ本刑ハ前犯
ノ刑期終リシ後之ヲ科ス

第二条 逃亡ヲナス為メ人ニ對シ暴行脅迫
ヲ用ヒタル時モ亦前条同刑ニ處ス但シ暴

行脅迫ニヨリ更ラニ重キ刑ニ処スヘキ

ハ重キニ據テ處断ス

第三条 前条ノ罪ヲ犯ス者ハ再逃以上ニ非

レハ再犯ノ例ニ照シ加重スヘカラス

第四条 未決ノ囚徒拘留中逃亡ヲナスヲ

第一条第二条ニ記載シタル法方ノ一個ヲ

用ヒタル者ハ一月ヨリ六月ニ至ル重禁錮

ニ處ス

前犯ノ罪ノ審判終ルニ非レハ逃亡ノ罪ヲ

科スヘカラス若シ前犯無罪ニ歸スル時ハ

直チニ逃亡ノ罪ヲ科ス若シ有罪トナル時

ハ二罪俱發ノ例ニ照シテ處断ス

第五條 逃亡ヲ為スニ人ヲ殺傷シタル時ハ

第三編第五條第十五條ニ記載シタル逃亡

ヲ助ケスト其刑ヲ免カレシムルノ目的ニ

テ殺傷シタル例ニ照シテ處断ス

第六條 三人以上ノ囚徒通謀シテ逃亡シタル者ハ前數條ニ記載スル刑ニ一等ヲ加フ

第七條 囚徒ヲ看守又ハ護送スルノ任アラサル者囚徒ニ逃亡ヲ為サシムル為メノ器具又ハ兇器其他暴行ヲナス為メノ法方ヲ授ケシ者ハ三月ヨリ二年ニ至ル重禁錮並ニ三日ヨリ三十日ニ至ル罰

金ニ處ス

若シ囚徒重罪ノ刑ニ處セラレタル者ナル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ

第八條 前條ニ記載シタル者自カラ脅迫暴行ヲ用ヒタル時ハ一年ヨリ五年ニ至ル重禁錮並ニ五日ヨリ五十日ニ至ル罰金ニ處ス

若シ左ニ記載スル諸件アル者ハ一個

アル毎ニ一等ヲ加重ス

一 兇器ヲ持レタル時

二 二人以上ニテ犯シタル時

以上暴行ニ依リ更ラニ重キ刑ニ處スヘ

キ時ハ重キニ據テ處断ス

第九條 囚徒ヲ看守又ハ護送スル任ア

ル者懈怠ニヨリ囚徒ヲ逃亡セシメタ

ル時若シ其囚徒重罪ノ刑ニ處セラレ

シ者ナル時ハ五回ヨリ二十五回ニ至ル罰

金ニ處シ若シ輕罪ノ刑ニ處セラレシ者

又ハ重罪輕罪ニ論ナク未決ノ囚徒ナル

時ハ四回ヨリ十回ニ至ル罰金ニ處ス

第十條 看守又ハ護送者囚徒通謀シ

テ逃亡ヲ為サシメタル時ハ左ニ記載ス

ル件々ニ照シテ處断ス

一 輕罪ノ刑ニ處セラレシ者又ハ未決ノ

囚徒ナル時ハ二年ヨリ五年ニ至ル
重禁錮並ニ五圓ヨリ二十五圓ニ至
ル罰金ニ處ス

二 重罪ノ刑ニ處セラレシ者ナル時ハ
輕懲役ニ處ス

三 無期ノ刑ニ處セラレシ者ナル時ハ
重懲役ニ處ス

第十一條 看守又ハ護送者獄舎破壊シ

又ハ脅迫暴行ヲ用ヒタル時ハ前數條ニ

記載シタル刑ノ長期ニ處ス

若シ二人以上ニテ脅迫暴行ヲ用ヒタル
時ハ長期以上其半ニ至ル刑ニ處ス

第十二條 逃之シタル囚徒又ハ刑事裁判

所(一事ニ換)ニ訴ハラレタルモノト知リ故ラ

ニ隠匿所ヲ給與シタル者若シ輕罪ノ

刑ニ處セラレタル囚徒又ハ未決ノ囚徒

ナル片ハ十五日ヨリ三月ニ至ル重禁錮
並ニ二山ヨリ十圓ニ至ル罰金ニ處ス
若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒アル
キハ本刑ニ一等ヲ加フ
若シ未決抱函ヲ受ケス裁判所ニ訴ヘ
ラレシ者ナル片ハ未決ノ囚徒ヲ隠匿
シタル者ハ同シク處斷ス

第十三條 其隠匿シタル者其犯人ノ配

偶者及ヒ宗系ノ尊屬卑屬ノ親及ヒ同
級ノ姻屬ノ親及ヒ兄弟姉妹伯叔父母甥
姪ナル片ハ前條ニ記シタル刑ヲ免レス

第十四條 毒殺又ハ創傷毆撃ヲ受ケ又

ハ其他輕重罪トナルヘキ原由ニ依リ
死シタル人ノ死體ヲ掩蔽セシ者ハ二月
ヨリ一年ニ至ル重禁錮並ニ五圓ヨリ二
十圓ニ至ル罰金ニ處ス

第十五条 此一節ニ記載シタル輕罪ノ
仕損シ及ヒ中止ハ法例ニ照シテ処断
ス

第四節 囚徒ノ逃亡其他囚人ヲシテ刑

ヲ免カレシムル為メナシタル

犯罪

第一条 逃亡ヲナス為メ有期已決ノ罪囚徒

獄舎又ハ獄具運送馬車ヲ毀テ逃亡タル時ハ一

月ヨリ六月ニ至ル重禁錮ニ処ス

第二条 逃亡ヲナス為メ人ニ對シ暴行脅迫

ヲ用ヒ逃亡タル時モ亦前条同刑ニ処ス但シ暴

行ニヨリ 毆傷ヲ為シ更ラニ重キ刑ニ処ス
一キキハ重キニ換テ処断ス

前一条二条ノ刑ハ前犯ノ刑期ヲ終リタル
後直チニ之ヲ科ス但シ輕禁錮ハ此限ニア
ラス

第三条 禁獄ノ刑ヲ受ケ法例第三十一
条ニ記載シタル許可ヲ得テ流地ニ移
リタル者前一条二条ニ記載シタル方法ノ

一個ヲ以テ逃亡ヲ為シタル時ハ前一条二條
ノ刑ニ処ス但シ此犯人ハ後來法例第三十
一條ノ便益ヲ与ヘス

第四条 前條ノ罪ヲ犯ス者ハ再逃以上ニ
非レハ再犯ノ例ニ照シ加重スヘカラ
ス

第五條 輕重徒流ニ処セラレタル者破壊
暴行脅迫ヲ以テ逃亡ヲ為シタル時ハ六

月ヨリ二年ニ至ル時間一人一室ニ鎖ス既ニ
鎖室ニ処セラレシ者ハ此期ヲ加重ス

但再ヒ逃亡シタル時ハ長期二年ニ處

ス

第六條 未決ノ囚徒拘留中逃亡ヲオス為

第一條第三條ニ記載シタル法方ノ一個ヲ

用ヒタル者ハ一月ヨリ六月ニ至ル重禁錮

ニ処ス

前犯ノ罪ノ審判終ルニ非レハ逃亡ノ罪ヲ

科スハカラス若シ前犯為罪ニ歸スル時ハ

直ニニ逃亡ノ罪ヲ科ス若シ有罪トナル時

ハ二罪俱發ノ例ニ照シテ処断ス

第七條 逃亡ヲ為スニ人ヲ殺傷シタル時ハ

第三編第五條第十五條ニ記載シタル逃亡

ヲ助ケ又ハ其刑ヲ免カレシムルノ目的ニ

テ殺傷シタル例ニ照シテ処断ス

第七
第八條 三人以上ノ囚徒通謀シテ逃亡シタ

ル者ハ前第一條第二條第六條ニ記載スル刑ニ

一等ヲ加フ第五條ニ記載シタル者ハ四分ノ一ヲ加重ス

第九條 囚徒ニ逃亡ヲ為サシムル為メ器

具又ハ兇器其他暴行ヲナス為メノ方法

ヲ授ケシ者ハ三月ヨリ二年ニ至ル重禁

錮並ニ三圓ヨリ三十圓ニ至ル罰金ニ処

ス

若シ囚徒重罪ノ刑ニ處セラレタル者ナ

ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ

第十條 前條ニ記載シタル者自カラ脅

迫暴行ヲ用ケタル時ハ一年ヨリ五年

ニ至ル重禁錮並ニ五圓ヨリ五十圓ニ至

ル罰金ニ處ス

若シ左ニ記載スル三件ノ一個アル者ハ一

個ナル毎ニ一等ヲ加重ス

一 重罪ノ刑ニ處セラレシ者ナル時

二 兇器ヲ持レタル時

三 二人以上ニテ犯レタル時

以上累行ニ依リ更ラニ重キ刑ニ處ス

ヘキ時ハ重キニ據テ處断ス

第十一條 囚徒ヲ看守又ハ護送スル任ア

ル者懈怠ニヨリ囚徒ヲ逃亡セシメタ

ル時若シ其囚徒重罪ノ刑ニ處セラレ

シ者ナル時ハ五円ヨリ二十五円ニ至ル罰

金ニ知レ若シ輕罪ノ刑ニ知セラレシ者

又ハ重罪輕罪ニ論ナク未決ノ囚徒ナル

時ハ四円ヨリ二十円ニ至ル罰金ニ知スレ

第十二條 懈怠ニヨリ囚徒ヲシテ逃亡セ

シメタル者看守又ハ護送者其囚徒更ラニ

他ノ重罪輕罪ヲ犯スナクシテ一月内

ニ其捕獲ヲ助ケシ時ハ前條ノ刑ヲ免ス

第十三条 看守又ハ護送者囚徒通謀シテ逃亡ヲ為サシメタル時ハ左ニ記載スル件々ニ照シテ知断ス

一 輕罪ノ刑ニ知セラレシ者又ハ未決ノ囚徒ナル時ハ二年ヨリ五年ニ至ル重禁錮並ニ五円ヨリ二十五円ニ至ル罰金ニ知ス

二 重罪ノ刑ニ知セラレシ者ナル時ハ輕懲役ニ知ス

三 無期ノ刑ニ知セラレシ者ナル時ハ重懲役ニ知ス

第十四条 看守又ハ護送者獄舎ヲ破壊シ又ハ脅迫暴行ヲ用ヒタル時ハ前數条ニ記載シタル刑ノ長期ニ知ス

若シ二人以上ニテ脅迫暴行ヲ用ヒタル時ハ長期以上其半ニ至ル刑ニ知ス

第十五条 刑ニ処セラレ、ニヨリ 公権ノ全部

又ハ残部ヲ剝奪セラレ又ハ禁止セラレ

タル者其権ヲ行ヲタル時ハ二月ヨリ一

年ニ至ル 軽禁錮並ニ二月ヨリ十月ニ至

ル罰金ニ処ス

但シ此刑ハ前犯ノ〔有期〕刑ノ終ル後子ニ

於テ之ヲ科ス

第十六条 法律ニ從ヒ警察官ノ監視ニ附

セラレシ者故ラニ其法律又規則ヲ以テ

命シタル義務ニ背キタル時ハ十五日ヨリ

六月ニ至ル重禁錮ニ処ス

第十七条 前第十五条第十六条ニ記載シ

タル者ハ再ヒ前二条ノ罪ヲ犯シタル時ニ

非レハ再犯ノ例ニ照シ加重スヘカラス

第十八条 逃亡シタル囚徒ト知り故ラニ

隠匿所ヲ與ヘ又ハ逃避ヲ容易ナラシメ

タル者若シ其囚徒輕罪ノ刑ニ処セラレ
シ者又ハ未決ノ囚徒ナル時ハ十五日ヨ
リ三月ニ至ル重禁錮二回ヨリ十日ニ至
ル罰金ニ処ス

若シ重罪ノ刑ニ処セラレシ者ナル時ハ一
等ヲ加フ

若シ裁判所ニ訴ヘラレシ者ナル時ハ未決
ノ囚徒ヲ隱匿シタル者ト同シク處断

ス

第十九条 其隱匿シタル者 其犯人ノ配
偶者及ヒ宗系ノ尊屬卑屬ノ親及ヒ同
級ノ姻屬ノ親及ヒ兄弟姉妹伯叔父母甥
姪ナル片ハ前条ニ記シタル刑ヲ免ス

第二十条 毒殺又ハ劊傷毆撃ヲ受ケ又
ハ其他輕重罪トナルヘキ原因ニ依テ
死シタル人ノ死體ヲ掩蔽セシ者ノ二月

ヨリ一年ニ至ル重禁錮並ニ五円ヨリニ
十円ニ至ル罰金ニ処ス

第二十一条 此一節ニ記載シタル軽罪ノ
仕損ニ及ヒ中止ハ法例ニ照シテ処断
ス

第五節 無産并ニ乞丐ノ取締

第一條 定タル住所及ヒ寄居スル所ナク平
常職業ヲ為サス又正当營生ノ方法ナク道
路園圃及ヒ人民ノ集合スル場所又ハ寂寞
ノ地ニ於テ徘徊スル者ハ無産ノ取締トナシ
十一月ヨリ一月ニ至ル重禁錮ニ処ス
此犯人ハ本刑ヲ終ル後六月ヨリ二年ニ至
ル時間警察官ノ監視ニ附ス

第二條 無産ノ者暗藏ノ兇器偽鑄破壊等家屋

スルニ用フル器具又ハ駐蹕ヲ犯ス為メニ
敵當スル物件ヲ持シタル時ハ三月ヨリ一

年ニ至ル重禁錮ニ處ス仍ホ二年ヨリ五年
ニ至ル監視ニ附ス

第三條 区邑又ハ無産ノ者ヲ引請ントスル
者ヨリ引渡ヲ求メ將來ノ行狀ヲ保証スル

者アル時ハ前二條ニ記載シタル刑ヲ止ム

保証ノ金額ハ裁判所ニ於テ之ヲ定ム此保
証金ハ無産者更ニ累ヲ犯シタル時ノ裁判
入費人ニ加ヘタル損害罰金ノ償ニ充ツ

第四條 無産ノ者人民又ハ官吏ニ對シ脅迫
暴行ヲ為シタル時ハ本刑ノ長期ニ處ス

若シ虚偽ノ請合書往來手形又ハ通行スヘ
キ道路ヲ定メタル手形ヲ所持シタル時ハ

此種類ノ虚偽証書ヲ使用シタル者ヲ罰ス

ル刑ノ長期ニ處ス

第五條 魚産ノ者金額及ヒ金銀寶石ヲ以テ
 製造シタル玩器又ハ價額アル物件ヲ所持
 シ其所持シタル原由ヲ証明スルコト能ハサ
 ル時ハ之ヲ官扣置シ監視ノ期限ヲ經過シ
 タル後ニ至リ返還ヲ求ムルコトナキ時ハ之
 ヲ水札ニ還附ス

第二款 乞丐ノ罪

第一條 壯健ニシテ平常乞丐ヲ為ス者ハ一
 月ヨリ三月ニ至ル重禁錮ニ處ス

脅迫又ハ兇器ヲ以テ乞丐ヲ為シ又ハ創傷
 癢篤疾ト詐稱シ乞丐ヲ為シタル者ハ二月
 ヨリ六月ニ至ル重禁錮ニ處ス

第二條 癢篤疾ニシテ職業ヲ為スコト能ハサ
 ル者地方官ノ免許ヲ受ケス又免許外ノ地

方ニ於テ乞丐ヲ為ス者ハ一月ヨリ三月ニ至ル輕禁錮ニ処ス

若シ乞丐者ヲ留置スル場所又ハ貧院ノ設ケ在ル地方ニ於テハ此所ニ於テ本刑ヲ受ケシム

第五節 無産並ニ乞丐ノ罪

第一條 定メタル住所及ヒ寄居スル所ナク平常職業ヲ為サス又正當營生ノ方法ナク道路周圍及ヒ人民ノ集合スル場所又ハ寂寞ノ地ニ於テ徘徊スル者ハ無産ノ罪トナシ六月ヨリ二年ニ至ル時間警察官ノ監視ニ附ス

夜間所有者人ノ住シタルノ免シヲ得ス家

屋又ハ其家屋ニ繼續シタル所ニ入ル者ハ
十一日ヨリ一月ニ至ル重禁錮ニ處ス

第二條 無産ノ者暗藏表携ノ兇器偽鑄破壊

(家屋)スルニ用フル器具又ハ輕罪ヲ犯ス為

メニ歌当スル物件ヲ持シタル時ハ一月ヨ

リ六月ニ至ル重禁錮ニ處ス仍ホ二年ヨリ

五年ニ至ル監視ニ附ス

第三條 區邑又ハ無産ノ者ヲ引請ントスル

者ヨリ引渡ヲ求メ将来ノ行状ヲ保記スル

者アル時ハ縣令ノ決定ヲ以テ前二条ニ記

載シタル刑ヲ止ムルヲ得ル

金額及ヒ

第四條 無産ノ者不相當ナル金銀寶石ヲ以

テ製造シタル玩具又ハ價額アル物件ヲ死

持シ其死持シタル原由ヲ証明スルヲ能ハ

サル時ハ之ヲ假リニ官扣置シ監視ノ期限

ヲ經過シタル後ニ至リ他ヨリ返還ヲ求ム

ル者ナキ時ハ之ヲ本犯ニ還附ス

第五條 壯健ニシテ平常乞巧ヲ為ス者ハ十

五日ヨリ二月ニ至ル重禁錮ニ處ス

罵詈詆嚇ヲ以テ乞巧ヲ為シ又ハ創傷癩馬

疾ト詐稱シテ乞巧ヲ為シタル者ハ本刑ニ二

等ヲ加フ

第六條 老幼癩馬疾ニシテ職業ヲ為スル能

ハサル者地方官ノ免許ヲ受ケス又免許外

ノ地方ニ於テ乞巧ヲ為ス者ハ一月ヨリ三

月ニ至ル輕禁錮ニ處ス

第六節

第一条 [裁判宣告書又ハ裁判ノ力ヲ以テ警

察官、監視ニ附セラレシ者故ラニ法律

又規則ヲ以テ余シタル義務ニ背キタル時

ハ一月ヨリ六月ニ至ル重禁錮ニ処ス

第二条 刑ニ処セラレハニヨリ公権ノ全部

又ハ幾部ヲ剝奪セラレ又ハ禁止セラレ

タル者其権ヲ行フタル時ハ二月ヨリ一

年ニ至ル輕禁錮并ニ二回ヨリ十回ニ至ル罰金ニ処ス

但し本刑内ニ在ラズルハ本刑ノ執行シ後之ヲ得ス

第三条 前二条ニ記載シタル者ハ再ヒ前

二条ノ罪ヲ犯シタル時ニ非レハ再犯ノ例

ニ照レ加重スヘカラス

第四条 流地ニ棄遣セラレシ者逃亡シ

タル時ハ破壊暴行ヲ用ヒスト虽モ左ノ

件々ニ照レテ処断ス

一 禁獄ノ刑ヲ受ケ法例第三十一条ニ

記載シタル許可ヲ得テ流地ニ移リ

タル者ナル時ハ其刑ノ長期ニ処ス又

長期以上半ニ至ル迄加重スルヲ得

二 輕流刑ニ処セラレシ者ナル時ハ重流

刑ニ処ス

三 重流刑ニ處セラレシ者ナル時ハ無期

徒刑ニ処ス

第五節 無産並ニ乞丐ノ罪

第一条 定タル住所及ヒ寄居スル所ナク平
 常職業ヲ為サス又正当学生ノ方法ナク道
 路園園及ヒ人民ノ集合スル場所又ハ寂寞
 ノ地ニ於テ徘徊スル者ハ無産ノ罪トナシ
 六月ヨリ二年ニ至ル時間警察官ノ監視ニ
 附ス

夜間所有者ノ免シヲ得ス人ノ住シタル家

屋又ハ其家屋ニ繼續シタル所ニ入ル者ハ
監視ニ附スルノ外仍ホ十一日ヨリ一月ニ
至ル重禁錮ニ處ス

第二条 無産ノ者暗藏表携ノ兇器偽鑄破壊

(騷屋)スルニ用フル器具又ハ輕重罪ヲ犯ス

為メニ適當スル物件ヲ持シタル時ハ一月
ヨリ六月ニ至ル重禁錮ニ處ス仍ホ二年ヨ
リ五年ニ至ル監視ニ附ス

第三条 區邑又ハ無産ノ者ヲ引請ントスル
者ヨリ引渡ヲ求メ将来ノ行状ヲ保記スル
者アル時ハ縣令ノ決定ヲ以テ前二条ニ記
載シタル刑ヲ止ムルヲ得

第四条 無産ノ者不相当ナル金額及ヒ金銀
寶石ヲ以テ製造シタル玩器又ハ價額アル
物件ヲ所持シ其所持シタル原由ヲ証明ス
ルヲ能ハサル時ハ之ヲ假リニ官ニ扣置シ

監視ノ期限ヲ經過シタル後ニ至リ他ヨリ
返還ヲ求ムル者ナキ時ハ之ヲ本犯ニ還附
ス

第五條 壯健ニシテ平常乞巧ヲ為ス者ハ十

五日ヨリ二月ニ至ル重禁錮ニ處ス友件ヲ
以テ乞巧ヲ為ス者ハ二等ヲ加重ス

一 罵詈詭譎ヲ為シタル時

二 兇器ヲ持シタル時

三 創傷癢罵疾ト詐稱シタル時

第六條 老者癡罵疾ニシテ職業ヲ為ス丁能

ハサル者地方官ノ免許ヲ受ケス又免許外
ノ地方ニ於テ乞巧ヲ為ス者ハ一月ヨリ三
月ニ至ル輕禁錮ニ處ス

第七節

当然行ハキ公務又ハ法ニ適

セシボメヲ受ケタル公務ヲ拒

ミシ罪

第一條 海陸軍ノ指揮官、士官、下士官行政及

ヒ司法官署ヨリ法ニ適シタルボメヲ受ケ

其ボメニ應セサル時ハ一月ヨリ六月ニ至

ル輕禁錮五回ヨリ五十回ニ至ル罰金ニ處

ス

第二條 醫師其他ノ者職務ニヨリ官署ヨリ
解剖鑑定又ハ検査ヲ為スルノ年セラレ故
ナク肯ンセサル者ハ五円ヨリ五十円ニ至
ル罰金ニ處ス

第三條 獸醫獸類傳染病ノ流行スル時官署
ノ求メヲ受ケ故ナク此危害ヲ換シ又ハ消
滅ノ方法ヲ陳述スル丁ヲ肯セサル者モ前
條同刑ニ處ス

第四條 海陸軍徴兵ニ管スル法律ヲ犯シタ
ル者ハ其法律ニ依テ処断ス

第七節 当然行フヘキ公務又ハ法ニ

適セシ求メテ受ケタル公務

ヲ拒ミシ眾

第一條 兵ノ指揮官、士官、下士官行政及ヒ

司法官署ヨリ法ニ適シタル求メテ受ケ

其求メニ應セサル時ハ一月ヨリ六月ニ

至ル輕禁錮五回ヨリ二十五回ニ至ル罰

金ニ処ス

第二條 醫師司法官署ヨリ法ニ適シタル

求メテ受ケ相当ノ事故ナク解剖^剖監定

又ハ調査ヲ為ス^フヲ肯シセサル者ハ十

五日ヨリ二月ニ至ル輕禁錮ニ處ス

第三條 獸医獸類傳染病ノ流行スル時

官署ノ求メテ受ケ相当ノ事故ナク此危

害ヲ檢シ又ハ消滅ノ方法ヲ陳述スル^フ

ヲ肯セサル者モ前条同刑ニ處ス

第四條 海陸軍徴兵ニ管スル規則ヲ犯

シタル者ハ其規則ニ依テ處断ス

第八節

封印ヲ破毀スル罪及ヒ官ニ

屬スル物件ヲ竊取破壊滅盡

スル罪

第一条

官署ノ命令(又ハ

)ニ

依リ門戸箱櫃其他ノ物件ニ為シタル

封印ヲ破毀又ハ竊取シタル者ハ三月ヨ

リ一年ニ至ル重禁錮五回ヨリ二十四ニ

至ル罰金ニ処ス監守者自カラ此罪ヲ

犯シタル時ハ本刑ニ二等ヲ加フ

第二條 封印ヲ為シタル物件ノ全部又ハ

幾部ヲ盜奪又ハ破壊シタル者ハ強竊

盜ヲ分テ法律(第三編第二章第一節)

ニ記載シタル重キ情状ヲ區分シテ通

常盜罪ノ刑ノ長期ニ処ス

封印ヲ破壊シタルトハ内外ノ破壊ト見

做ス雇人ノ身分ニ依リ加重スヘキ規

則ヲ盜奪又ハ破壊ヲ為シタル給料ノ

有無ヲ論セス監守者ニモ亦通シ用

フヘシ

第三條 竊取毀損滅盡シタル物件ノ

輕重罪ニ管スル調書又証拠物ナル時

ハ輕懲役ニ処ス若シ看守者自カラ犯

シタル時ハ重懲役ニ処ス

第四條 若シ看守者ノ懈怠ニ係ル時

ハ左ノ件々ニ照シテ処断ス

一 第一条ノ場合ニ於テハ一月ヨリ三

月ニ至ル輕禁錮二四ヨリ十四ニ至

ル罰金ニ処ス

二 第二条ノ場合ニ於テハ二月ヨリ六月ニ

至ル輕禁錮五四ヨリ二十四ニ至ル罰

金ニ処ス

三 第三条ノ場合ニ於テハ三月ヨリ一年

ニ至ル輕禁錮十四ヨリ十四ニ至ル

罰金ニ処ス

第五条 常人政府又ハ官署ニ属スル書類簿

冊書籍又ハ器物ニシテ官署又ハ官ノ藏書

庫又ハ公ノ書籍ヲ藏スル場所ニ於テ盜奪

シタル者ハ強窃ヲ分テ法律(第三編第二章

第一節)ニ記載シタル重キ情状ヲ區分シ通

常盜罪ノ刑ノ長期以下半ニ至ル刑ニ処ス

(タトハ一月以上二年以下ノ刑ニ当ル者ハ短期
ヲ一年トシ即チ一年以上二年以下ノ刑ニ処ス)

第六条 政府又ハ官署ニ属スル動産不動産

物件ヲ破壊滅盡シタル者ハ通常破壊滅盡

ノ刑ニ照シ其長期以下半ニ至ル刑ニ處ス

第七条 前数条ニ記載シタル輕罪ノ仕損及

ヒ中止ハ法例ニ照シテ處断ス

第九節 禁制ノ兵器器械ヲ製造シ

及ヒ輸入賣買又ハ所有ス

ル罪

第一条 政府ノ許可ヲ得ス又任ヲ受ケス

戦ニ用フル兵器彈藥其他ノ器械ヲ製

造シ又ハ政府ニ於テ製造ノ権アル物

品(物品ノ名數種
アリ之ヲ畧ス)ヲ製造シタル者ハ六月

ヨリ二年ニ至ル重禁錮五十四ヨリ二

百圓ニ至ル罰金ニ処ス

若シ此物品ヲ(許可ヲ得ス)輸入シタル者モ亦同シ

第二条 前条ニ記載シタル物品ヲ賣買シタル者ハ三月ヨリ一年ニ至ル重禁錮二十五圓ヨリ百圓ニ至ル罰金ニ処ス

第三条 前条ニ記載シタル物品ヲ賣買スル為メニ非スシテ所有シタル者ハ

一月ヨリ三月ニ至ル輕禁錮五圓ヨリ十五圓ニ至ル罰金ニ処ス

第四条 (戦ニ用フル兵器ニ非スト虽モ) 禁制ノ兵器ヲ製造シ又輸入及ヒ賣買シタル者ハ第一条第二条ニ記載シタル刑ニ二等ヲ減ス

第五条 禁制ノ物品ナルヲ知リ故ラニ製造輸入賣買ヲ為スト虽モ止メ職人

又ハ手代トシテ雇ヒヲ受ケ為シタル時
ハ前条ノ刑ニ一等ヲ減ス

第六条 前数条ニ記載シタル物品并ニ其
物品ヲ製造スルニ適當ナル器械ハ何人
ノ手ニ在ルヲ論^問セス皆之ヲ没収ス

遊獵規則又ハ慣習ニ依リ許シタル分量
以上ノ獵用彈藥ヲ所持スル時モ亦同シ

第七条 前数条ニ記載シタル竝罪ノ

仕損及ヒ中止ハ法例ニ照シテ又新ス

司
法
省

第八節 封印ヲ破毀スル罪及ヒ官ニ

屬スル物件ヲ竊取破壊滅盡

スル罪

第一條 官署ノ命令及ヒ官署ノ処分ニ依

リ門戸箱櫃其他ノ物件ニ為シタル封印

ヲ破毀又ハ除棄シタル者ハ三月ヨリ一年

ニ至ル重禁錮五円ヨリ二十円ニ至ル罰

金ニ処ス

司
法
省

監守者自カラ決罪ヲ犯シタム時ハ六月ヨリ二年ニ至ル重禁錮十円ヨリ四十円ニ至ル罰金ニ処ス

第二條 暴行ヲ用ヒス封印ヲ破毀シテ其物件ノ全部又ハ一部ヲ竊取シタム者ハ六月ヨリ二年ニ至ル重禁錮十円ヨリ四十円ニ至ル罰金ニ処ス

監守者自カラ決罪ヲ犯シタム時ハ一年ヨリ四年ニ至ル重禁錮二十円ヨリ五十円ニ至ル罰金ニ処ス

前二項ニ記載シタム竊盜ヲ為スニ於テ重々状況アル者ハ第三編第二章第一節ニ記載シタム區別ニ從ヒ本刑ヲ加重ス

若シ暴行ヲ用ヒテ犯シタム時ハ強盜ト同シク論ス

第三条 若し封印ヲ為シタル物件ヲ故ラ
ニ破壊シタル者ハ竊取シタルト同シク
処断ス

第四条 官署ヨリ封印スル紙ノ軽重罪
ニ管スル書類ノ本書又証拠物ヲ盜奪毀
壞シタル時ハ輕懲役ニ処ス若し監守者
自カラ犯シタル時ハ重懲役ニ処ス

暴行ヲ用ヒタルニ依リ重キニ後ニ処断

スハキ時ハ重キニ依テ処断ス

第五条 若し看守者ノ懈怠ニ係ル時
ハ左ノ件々ニ照シテ処断ス

- 一 封印ヲ破毀又ハ除棄シタル場合ニ
於テハ一月ヨリ三月ニ至ル輕禁錮
ニ用ヨリ十月ニ至ル罰金ニ処ス
- 二 封印ヲ為シタル物件ヲ竊取又ハ破
壞シタル場合ニ於テハ二月ヨリ六月

ニ至ル輕禁錮五円ヨリ二十円ニ至ル
罰金ニ処ス

三 輕重罪ニ管スル調書ノ本書又ハ証
拠物ヲ盜奪毀壞シタル場合ニ於テ
ハ三月ヨリ一年ニ至ル輕禁錮十円ヨ
リ四十円ニ至ル罰金ニ処ス

第六條 裁判所ノ書記局ニ收メ又ハ裁判
官ノ手ニ在ル輕重罪ニ管スル書類ノ本

書又ハ証拠物ヲ故ラニ盜奪毀壞シタル
者ハ一年ヨリ三年ニ至ル輕禁錮十円ヨ
リ五十円ニ至ル罰金ニ処ス

若シ書記及ヒ補其他裁判所ニ附属シ
タル者以罪ヲ犯シタル時ハ二年ヨリ五
年ニ至ル輕禁錮二十円ヨリ百円ニ至ル
罰金ニ処ス

若シ前項ニ記載シタル者ノ懈怠ニヨ

り盗取又ハ毀壞セラレ又ハ遺失シタ
ル時ハ一月ヨリ六月ニ至ル輕禁錮二
月ヨリ二十四ニ至ル罰金ニ処ス

第七條 常人政府又ハ官署ニ屬スル

前條ニ記載シタル以外ノ書類簿冊書籍
又ハ金穀物件ニシテ書記局記録局又
ハ官ノ藏書庫其他公ノ物品ヲ藏スル
場所ニ於テ窃取シタル者ハ四月ヨリ

二年ニ至ル重禁錮四月ヨリ二十日ニ至ル罰
金ニ処ス

若シ書記官及ヒ記録官其他金穀物品ノ
看守者自カラ犯シタル時ハ八月ヨリ四年
ニ至ル重禁錮八月ヨリ八十日ニ至ル罰金
ニ処ス

前ニ項ニ記載シタル窃盗ヲ為スニ於テ重
キ事情アル者ハ窃盗ノ例ニ照シ本刑ヲ

加重ス

第八條 政府又ハ官署ニ屬スル動産不動
産物件ヲ破壊滅盡シタル者ハ第三編第
百六十條以下ニ記載シタル破壊滅盡ノ
刑ニ照シテ処断ス但シ禁錮ノ短期罰金
ノ寡数ヲ二倍ス

第九條 前二條ニ記載シタル場合ニ於テ
書記官及ヒ記録官其他看守者ノ懈怠
ニ係ル時ハ十五日ヨリ六月ニ至ル輕禁錮
ニ用ヨリ二十円ニ至ル罰金ニ処ス

第十條 前數條ニ記載シタル輕罪ノ仕損
及ヒ中止ハ法例ニ照シテ処ス但シ看守
者懈怠ノ罪ハ決限ニ非ス

第九節 禁制ノ兵器器械ヲ製造シ

及ヒ輸入賣買又ハ所有スル

罪

第一條 政府ノ任ヲ受ケス又許可ヲ得ス

戦ニ用フル兵器彈藥其他ノ器械ヲ製造

シ又ハ政府ニ於テ製造ノ權アル破裂質

ノ物品ヲ製造シタル者ハ六月ヨリ二年ニ至

ル重禁錮五十四ヨリ二百四ニ至ル罰金ニ

處ス

若シ此物品ヲ許可ヲ得ス輸入シタル者
モ亦同シ

第二條 前條ニ記載シタル物品ヲ賣買シ
タル者ハ三月ヨリ一年ニ至ル重禁銅ニ
十五圓ヨリ百圓ニ至ル罰金ニ處ス

第三條 禁制ノ兵器ヲ製造シ又ハ輸入
シタル者ハ三月ヨリ一年ニ至ル重禁銅

二十五圓ヨリ百圓ニ至ル罰金ニ處ス

前項ニ記載シタル兵器ヲ賣買シタル者
ハ一月ヨリ六月ニ至ル重禁銅十圓ヨリ
五十圓ニ至ル罰金ニ處ス

第四條 前數條ニ記載シタル物品ナルヲ
知リ故ラニ製造輸入賣買ヲ為スト雖モ
止夕職人又ハ手代トシテ雇ヒテ受ケ為
シタル時ハ前數條ノ刑ニ二等ヲ減ス

第五條 前數條ニ記載シタル物品ヲ賣

買スル為メニ非スレテ所有シタル者

ハ五円ヨリ五十円ニ至ル罰金ニ處ス

第六條 前數條ニ記載シタル物品並ニ其

物品ヲ製造スルニ適當ナル器械ハ何人

ノ手ニ在ルヲ問ハス皆之ヲ沒收ス

第七條 前數條ニ記載シタル輕罪ノ

仕換レ及ヒ中止ハ法例ニ照レテ處

断ス

第五章 公ノ信用ヲ害スル重罪輕罪

第一節 貨幣紙幣贋造ノ罪

第一條 内國ノ金銀貨幣又ハ内國ニ於テ當
然通用ヲ為ス所ノ外國貨幣ヲ贋造シタ
ル者ハ重徒刑ニ処ス
故ラニ貨幣ヲ變造シテ其價ヲ減シタル
者ハ輕徒刑ニ処ス

第二條 贋造又ハ變造ノ貨幣ヲ故ラニ内

國ニ輸入シタル者若シ贋造又ハ変造ノ
正犯ナル時ハ前条同刑ニ処ス

第三条 貨幣ヲ贋造シ又ハ其貨幣ヲ内
國ニ輸入スルコトニ現ニ與スト^セ虽モ其贋
造ノ貨幣タルコトヲ知リ故ラニ之ヲ使用
シタル者ハ輕徒刑ニ処ス

若シ使用シタル貨幣止々変造ニ係ル
時ハ重懲役ニ処ス

第四條 内國ニ於テ当然通用スル所ノ銅
貨ヲ贋造レ又ハ贋造タル銅貨ヲ内國ニ
輸入シタル者ハ重懲役ニ處ス

銅貨ヲ贋造レ又其銅貨ヲ内國ニ輸入
スルコトニ現ニ與スト^セ虽モ其贋造ノ銅
貨タルコトヲ知リ故ラニ之ヲ使用シタル
者ハ輕懲役ニ處ス

第五條 便宜通用スル所ノ外國ノ金銀